

ゴール型 サッカー 第1学年

手順3 例示等を基に、第1学年及び第2学年の内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」を設定します。

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
<ul style="list-style-type: none"> ・球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ・学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出したりしている。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。 ・球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ・マークされていない味方にパスを出すことができる。 ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・ボールを持っている相手をマークすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。 ・作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ・練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。

手順4 当該単元における「単元の評価規準」を設定します。

手順2にある「第1学年及び第2学年『球技』における2年間を見通した指導事項の配置」の指導事項に対応した単元の評価規準を設定します。

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識	技能		
<ul style="list-style-type: none"> ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ③仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ④仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ③健康・安全に留意している。

手順5 当該單元における具体的な指導内容の明確化を図ります。

単元の目標の実現には、具体的な指導を充実した上で、「単元の評価規準」により評価を行うことが重要です。そのため、学習指導要領の記載等から、生徒の学習状況を実現するための具体的な指導内容を明確にします。

知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
知識	技能		
<p>ゴール型球技は、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。</p> <p>ボール操作には、シュートやパス、ボールをキープする技術の名称があること。それらを身に付けるポイントがあること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>ゴール方向に守備者のいない位置に移動した時にシュートを打つこと。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートを行うことができる。</p> <p>フリーの仲間を見付け、相手の動きに合わせてパスを送り出すこと。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>ボール保持者とゴールが見える位置に移動し、ボールを受ける準備姿勢をとること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、キープのポイントを提示し、仲間の動きと比較し、伝えること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>最善を尽くすことやフェアプレイ等の価値について視点を与え、ゲームの中で仲間のよい態度やプレイを見付け、理由を添えて他者に伝えること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>活動時間の確保やグループの人間関係がよくなるといった目的を伝え、用具の準備や後片付け、記録や審判などの分担した役割における自身の活動の仕方を見付けること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>仲間の意見をしっかり聞く、自身の意見を述べるなどの話し合いへのマナーを提示し、参加の仕方を見付けること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>④仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>自己の課題の解決に向けた練習方法や作戦について話し合う場面で、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>①作戦などについての話し合いに参加しようとしている。</p> <p>自己の状況に合った実現可能な課題、練習方法やゲームの修正を認めようとする。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。</p> <p>体調の変化などに気を配ること、ボールなどの用具の扱い方や、ゴールの設置状態、練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること、技能の難易度や自己の体力や技能の程度に合った運動をすることが大切であること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>③健康・安全に留意している。</p>

手順6 単元の目標、単元の評価規準をもとに単元を構想しましょう。

【単元構想】

単元名	球技 ゴール型 サッカー			
単元の目標	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。</p> <p>(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。</p>			
単元の評価規準	知識・技能		主体的に学習に取り組む態度	
	知識	技能	思考・判断・表現	
	<p>① 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>② 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p>	<p>① ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>② 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>② 練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>③ 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>④ 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>	<p>① 作戦などについての話し合いに参加しようとしている。</p> <p>② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。</p> <p>③ 健康・安全に留意している。</p>
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）				
仲間と協力して学習する中で、サッカー（球技）に関する理解を深め、ゴール前での攻防を展開して楽しさや喜びを味わい、日常生活でも球技をはじめスポーツに多様な関わり方をする生徒				
単元を通した学習課題	本単元で働かせる見方・考え方			
みんなでサッカーを楽しむために必要な力を身に付けよう。	サッカー（球技）の勝敗を競う楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割に着目して、ボールを操作しながらゴール前の空間をめぐる攻防を「する」、動きのポイントや仲間の出来栄を「みる」、練習の補助をしたり、仲間に助言したりして「支える」、サッカーの特性や技術の名称、ポイント等を「知る」といった多様な関わり方と関連付けること			

指導計画と評価計画は、手順5で考えた指導内容の明確化との整合性も図りましょう。

指導計画と評価計画														
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
学 習 の 流 れ	0	健康観察・本時のめあての確認・準備運動												
	10	オリ エン テー シ ョ ン サッ カー の 特 性	スキルアップトレーニング パス ドリブル		スキルアップトレーニング パス・ドリブル								リーグ戦① (総当たり)	リーグ戦② (総当たり)
	20				空間に走り込む動き 2ゴールドリル 3対2ドリル			課題の確認と 解決練習		ボール操作				
	30		シュート ドリル		技術の名称 ポイント		課題や出来 映えの伝達		話し合いでの 関わり方					
	40		基本のボール操作		シュート ゲーム 安全面		タスクゲーム (2ゴールゲーム) 仲間の即時の助言		簡易ゲーム 人数・コート・ルール等の簡易化		挑戦・修正 を認める			
50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認													
評 価 機 会	1	①	②		②		②							
	2			①		②		③						
	3						③		①		④	②		
	4	③	③						②	②			①	
【評価方法】知識（学習カード）技能（観察）思考・判断・表現（学習カード・観察）主体的に学習に取り組む態度（観察・学習カード）														

具体的な指導内容													
1 関連して高まる体力とその体力向上の手立て													
ゴール型では、主として巧緻性、敏捷性、スピード、全身持久力などが関連して高められる。													
【効果的に体力を高める運動例】													
○体力づくりに対する効果が高まるように、タスクゲームや簡易ゲームではコートの広さや人数を工夫したゲームを準備する。また、ドリル練習やゲーム前に、技術とそれに「関連して高まる体力」を理解させるための資料を提示することにより、ポイント（技術・体力向上）を意識したボール操作やボールを持たないときの動きが高まるように指導する。													

【パス&サポートの指導を通して高まる体力】

- 味方をサポートするために素早い動きを意識すれば、敏捷性の高まりが期待できる。
- 空いているスペースへダッシュで走り込めば、スピードの高まりが期待できる。
- 練習中に休むことなくパス&サポートを繰り返すことで、全身持久力の高まりが期待できる。

2 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得のために（技能向上のための手立て）

【スキルアップトレーニング】（第2時・学習活動参照）

- 基本的なボール操作（ドリブル・パス）や守り方等の基礎的・基本的な技能をより効果的に定着させるためにスキルアップタイムの時間を確保する。第2時にボール操作のポイントを共有し、単元を通して帯で位置付けるようにする。

3 ICT活用

【生徒の活用】課題解決の場面において、生徒同士が撮影した動画を活用し、仲間・チームの課題や出来映えを伝えるなどにより、協働的な学びの充実を図る。

【記録の活用】前時に撮影した動画と本時に撮影した動画を比較し、自己の変容を確認することで、次時以降の主體的な学びに結び付けられるようにする。

4 障がいのある生徒などへの配慮

【グループでの準備や役割分担が難しい場合】

- 生徒が見通しを持って安心して取り組むことができるよう、全体の手順や仕事内容を視覚的に明示する。
- 「準備するものは○○」といった明確な役割を提案する。
- 生徒の実情に応じて、取り組むことができる役割から段階的に取り組ませるなどの配慮をする。

5 体力や技能の程度、性別や障がいの有無を超えて運動やスポーツを楽しむために、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような学習活動・学習形態・練習の取り組み方、ルールやゲームの工夫、男女共習の工夫例など

- 共生の視点を踏まえながら、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えたり、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めたりできるよう指導する。

【学習活動】みんながサッカーを楽しむために、基本技能の習得を目指すスキルアップトレーニングを毎時間設定したり、多様な関わり方と関連付けた活動を確保したりする。

【学習形態】グループ学習（6人程度）を基本とすることで、仲間と課題を見付けたり練習方法を工夫したりしながら、チームみんなで協働しながら課題解決をしていけるようにする。

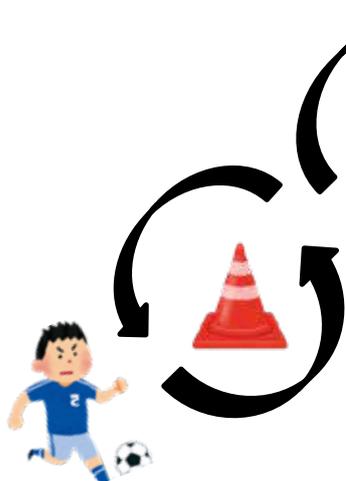
【共生指導】グループを編成する際に、共生に関する汎用的な知識の定着を図る指導を行い、技能や体力・運動能力、性別等が異なる生徒が混在するグループを編成する。

時間	学 習 内 容 ・ 活 動
1	<p>【学習内容】</p> <p>○ゴール型は，ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し，シュートを放ち，一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合う楽しさや喜びを味わえるといった特性があること。（知）</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>(1) サッカーの特性について理解する。（映像を通して確認する。）</p> <p>(2) 単元の過程やゴールの姿・単元を通じた学習課題を全体で共有する。（掲示・学習カードで確認し，単元における学びの姿をイメージさせる。）</p> <p>※ 参考資料参照（学習カード）</p> <p>(3) 授業のルールや学び方を確認する。（進め方や約束事項の確認・グルーピング）</p> <p>2 基本のボール操作（6人グループ）</p> <p>○グループでスキルチェックを行う（パス・ドリブル・ボールタッチ）</p>
2	<p>【学習内容】</p> <p>○ゴール方向に守備者のいない位置に移動した時にシュートを打つこと。（技）（第3時）</p> <p>○体調の変化などに気を配る，用具の扱い方やゴールの設置状態，練習場所などの自己や仲間の安全に留意すること，技能の難易度や自己の体力や技能の程度に合った運動を行うなど健康に留意すること。（学）（第2時）</p> <div data-bbox="256 1193 1206 1279" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>健康・安全の留意事項（活動の前に全体に提示し確認する。）</p> </div> <div data-bbox="1289 1178 1401 1330" style="text-align: right;">  </div> <div data-bbox="1254 1352 1383 1391" style="text-align: right;"> <p>ポイント</p> </div> <div data-bbox="256 1323 1225 1686" style="border: 2px solid orange; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>① 一緒に活動する仲間の体調や安全に気を配ろう！</p> <p>② 使用する道具やグラウンドの状態を確認しよう！</p> <p>③ 自分の体調や体力にあわせながら活動しよう！</p> <p>④ 使用しないボールは，所定の場所で管理しよう！</p> <p>⑤ 体調に異常を感じたら運動を中止しよう！</p> </div> <div data-bbox="288 1783 1150 1966" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>スキルアップトレーニングを通して，安全を意識した学習の進め方や安定したボール操作を身に付けられるようにしよう。</p> </div> <div data-bbox="1209 1610 1374 1984" style="text-align: right;">  </div>

1 スキルアップトレーニング（ボールは2人に1球準備する。）

(1) 「8の字ドリブル」→ボールをコントロールする力を高める

- ペアで行う。（1人が行っている間、ペアは周数を数えながら助言する。）
- 30秒間、ペアとコーンの間（間隔は約2m）を8の字に回り続ける。



足の裏やインサイド・アウトサイドをうまく使い分けながらドリブルしよう！
コーンから離れないように、ドリブルのスピードも意識しよう！

(2) 「ドリブルリレー」→ボールをコントロールしながら運ぶ力を高める。

- グループでボールを2球使用し、双方のコーンからドリブルをスタートする。
- 約20mのコーン間をドリブルし味方に渡す。
- コーン間でボールタッチの最低回数を設定し、コントロールしながらボールを運ぶ。
- 2分間行う。（フェイントを入れる等の工夫をしてもよい。）
- ※ボールの個数は、グループの人数や技能の上達状況に応じて増減させる。

2

(3) 「円陣パス」→トラップとパスのコントロール精度を高める。

- グループで円になり、2分間コミュニケーションをとりながらパスを行う。
- 転がってくるボールの処理（トラップ）とコントロールを意識したパスを行うようにする。
- グループの実態に応じて、パスの距離や強さを調整する。
- ※パスの技能が高まってきたら、ボールの個数を増やし、パスした相手の方へ動きサポートの意識を高める。

(4) 「中鬼パス」→味方と協力した動きでボールキープ力を高める。

- 4つの角に立つ味方同士で、中にいる2人の防御者にとられないようパスを回す。
- スペースを見つけたり移動したりしながらパス回しを行う。
- パスカットされたりボールを触られたりした場合は、防御者と交代する。
- ※グループの実態に応じて、ボールを受けてからパスを出すまでの時間を制限したり、フィールドの広さを調整したりする。

2 シュートドリル (シュート技能習得のためのドリル)

(1) ドリブルからのシュート

○5m程ドリブルしてからシュートする。(防御者なし)

(2) パスを受けてからのシュート

○ゴール付近でパスを受け、シュートする。(グループでパスを出す位置を調整)

※ダイレクトでシュートするのかトラップしてシュートするのかは、状況に応じて個人で判断させる。



※コーンの真ん中に置いたボールやコーナーを狙わせたりしてシュートさせる。

※シュートが苦手な生徒に対して

3



シュートをパスの延長と考えてみよう。
ゴールに向かってパスをすることがシュートに繋がってくるはずだよ。

○止まっているボールをよく見てシュート練習を行う。
○転がすボールのスピードを調整し、足を踏み込むタイミング練習を行う。(徐々にスピードをあげていく。)



ポイント

3 シュートゲーム (6対6)

○両チーム、相手陣に4名 (両サイドにウイング)

自陣に2名で行う。

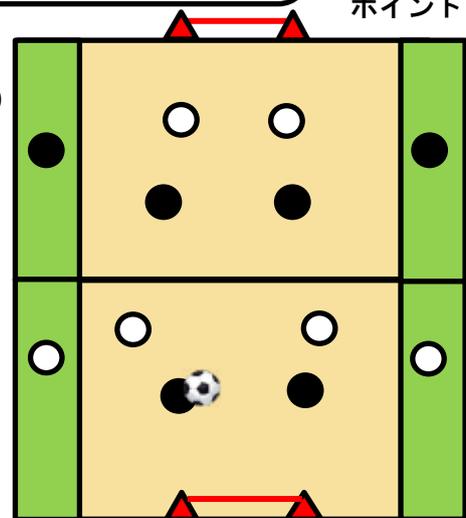
○攻撃側が数的有利となるよう、相手陣に4名・自陣2名の人数は固定とする。

(得点が入ればローテーション)

○ウイングゾーンで受けたボールは、ウイングだけがボール操作できる安全ゾーンとする。

○ウイングを有効に使い、守備者がいない位置でパスを受け、シュートチャンスを生み出すようにする。

○ゴールキーパーはなし。



ウイングゾーン

○オフサイドルールは適用しない。

<フィールド>

縦30m・横25m

※ウイングゾーンは両サイド5mずつ

【学習内容】

○得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと。(技) (第4・5時)

1 2 ゴールドリル (ミニフィールドでの3対2)

グループ学習 (ローテーション)

攻撃3人・守備2人・ICT機器撮影1人

○ドリブルゾーンからスタートし、フリーゾーンにいる味方(得点しやすい)にパスを出す。

○ドリブルゾーンにいる味方は、フリーゾーンへの進入も可能とし、数的優位を生かしながら攻撃を行う。

○グループで互いにICT機器で撮影し合い、得点チャンスを見付けたり、助言し合ったりしながら技能習得に役立てられるようにする。

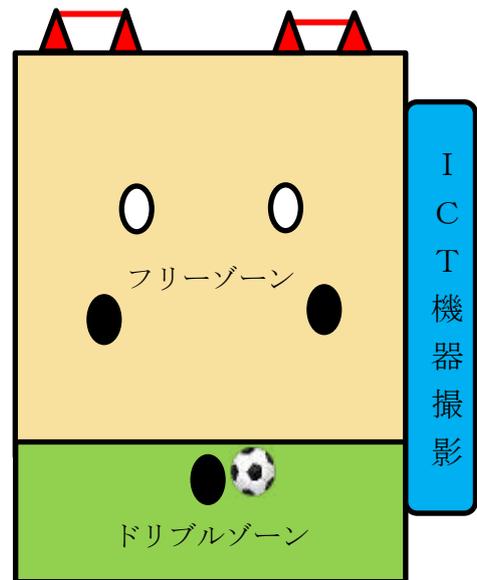
<フィールド>

縦20m (ドリブルゾーン5m・フリーゾーン15m), 横20m

※ICT機器活用の際の注意点



撮影した全ての映像を確認するのではなく、「特にスペースを生かしたパスができた場合」や「動くイメージがわからない場合」等、効果的な学び合いができるようにしましょう。



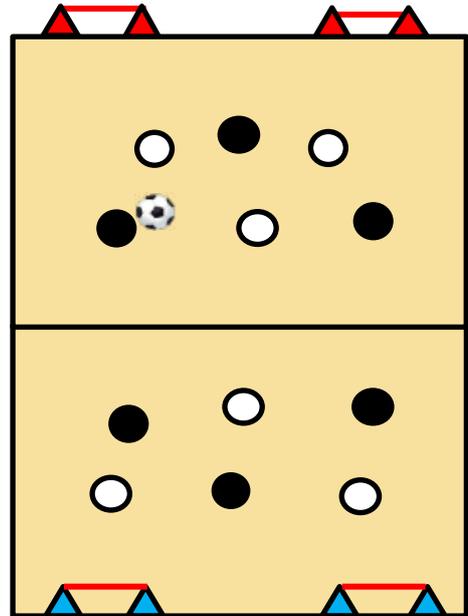
4

2 2ゴールゲーム（6対6）

- 相手ゴールを2ヶ所つくり，どちらを狙ってもよい。
- 全体を見ながらコミュニケーションをとり，得点しやすい味方にパスが出せるようにする。

※2ゴールにすることで得点チャンスが増え，より学習の課題に迫ることができる。

<フィールド>
縦40m・横20m，ゴール幅2m



5



パスを受ける人は，防御者のいない場所に動いてみよう！
空いたスペースに走り込むといいね！

【学習内容】

- ボール操作には，シュートやパス，ボールをキープする技術の名称があること。それらを身に付けるポイントがあること。（知）（第6時）
- ボール保持者とゴールが見える位置に移動し，ボールを受ける準備姿勢をとること。（技）（第7時）
- 活動時間の確保やグループの人間関係がよくなるといった目的を伝え，用具の準備や後片付け，記録や審判などの分担した役割における自身の活動の仕方を見付けること。（思）（第6時）

1 3対2のドリルゲーム（ミニフィールド）

6

グループ学習（役割分担）

リーダー	全体のリード，整列
学習カード	カード管理，配付
記録・分析	シュート・ゴール数カウント
準備・片付け①	コーン・バー・ビブス
準備・片付け②	I C T機器（タブレット等）
サポート	状況を見て補助



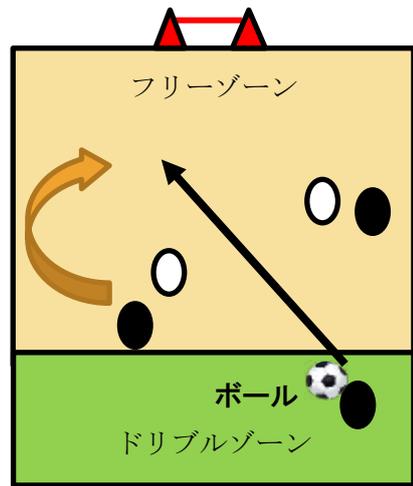
ドリルゲームやタスクゲームで，各自に分担された役割に応じた協力の仕方を見付けて取り組もう！

- ボールとゴールが同時に見える場所に立ち、空間に走り込む動きができるように練習する。
- 攻撃側の3人は、三者の位置関係を三角形で捉えながら有効空間に走り込んでパスを受けようとする。

<フィールド>

縦20m(ドリブルゾーン5m・フリーゾーン15m)

横20m



ICT機器撮影

7



ボールとゴールの両方が視野に入っているかな。
 パスを受けようとする時には、ボールだけやゴールだけを見るのではなく、ボール保持者とゴールと自分の位置関係を三角形で捉えてみよう。

2 2 ゴールゲーム (6対6)

【学習内容】

- 成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、キープのポイントを提示し、仲間の動きと比較し、伝えること。(思)(第8時)
- 自己の状況に合った実現可能な課題、練習方法やゲームの修正を認めようとする事。(学)(第9時)

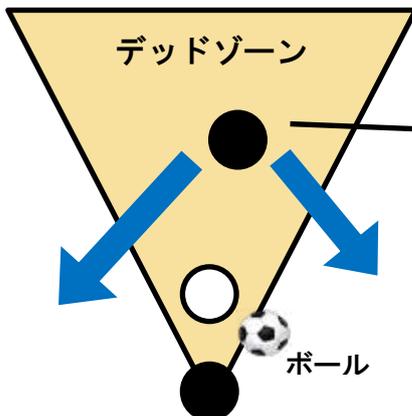
- つまずきの事例を活動の前に全体に提示し確認する。

※これまでの学習を通して、グループから挙がってきている課題や全体の課題となっている動きを取り上げるようにする。



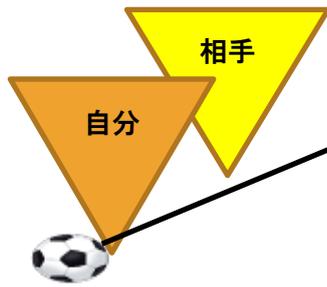
8

課題：パスしたボールが防御者に当たってしまう。



防御者背後のデッドゾーンでは、パスが通りにくい。
 デッドゾーンから出てパスをもらえるようにしよう！

課題：味方にパスする前に、防御者からボールをカットされてしまう。



相手から遠い方の足でボールキープする。
「ボール・自分・相手」の位置関係を保てるよう、ボールと相手の間に体を入れてスクリーンする。

- 1 4対2のドリルゲーム（ミニフィールド）
 - 攻撃側の4人は守備側の2人からボールを奪われないようにボールをキープする。
 - 4人全員がパス（ボールタッチ）した上でシュートを狙うようにする。
 - リターンパスも可能とする。

※活動前に確認した「動きのポイント」を意識した練習となるようにする。

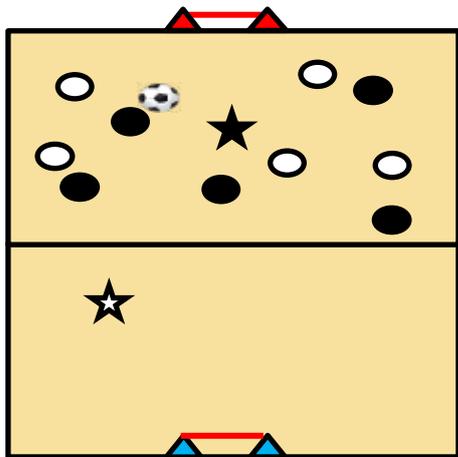


9

動きのポイントやつまずきの事例が、4対2のドリルゲームの中で生じたのかを確認し合う。うまくいったことや課題について伝え合うようにし、今後の学習に結びようとする。

- 2 「6対6」簡易ゲーム（守備者の数に制限）

※「自陣に戻れない人を一人決める」ルールにより、相手コートでは常に一人多い状況で攻めることができるようにする。



↑ ●の攻撃方向
★☆は自陣に戻れない人

①簡易ゲームの前に、自己や仲間の課題や挑戦することを確認（ボードに記入）した上で取り組む。

②ハーフタイムでは、ボードに記入した内容で修正していく課題に対してグループトークする。

③簡易ゲーム後に、確認したことや修正したことを振り返り、一人一人の挑戦に仲間が気付けるようにする。

【学習内容】

- 仲間の意見をしっかり聞く、自身の意見を述べるなどの話し合いへのマナーを提示し、参加の仕方を見付けること。(思) (第10時)
- 最善を尽くすことやフェアプレイ等の価値について視点を与え、ゲームの中で仲間のよい態度やプレイを見付け、理由を添えて他者に伝えること。(思) (第11時)

1 0

話し合いでの参加の仕方 (活動の前に全体に提示し確認する。)



＜話し合いでの参加の仕方＞

- ① 仲間の意見をしっかりと聞こう！
- ② 自分の考えたことを仲間に伝えよう！
- ③ 意見や考えの違いを受け入れながら話し合おう！

話し合いへの参加の仕方 (ルール) を意識して意見交流しよう！

話し合いのプロセス (課題発見・解決・交流)

＜課題発見＞

これまでの学習をもとに、自己やグループの課題点を発見する。
※学習カードから情報を確認する

＜個人思考＞

話し合う内容について個人で考察する。
※他者にわかりやすく伝えられるよう分析・整理する

＜意見交流＞

自分の考えをグループの仲間へ伝えたり、仲間の意見を聞いたりする。
※習得知識を活用

＜再構築＞

練習やゲームを通して話し合った作戦等について振り返る。
※考えを深め・創造し、再構築する

課題発見

個人思考

意見交流

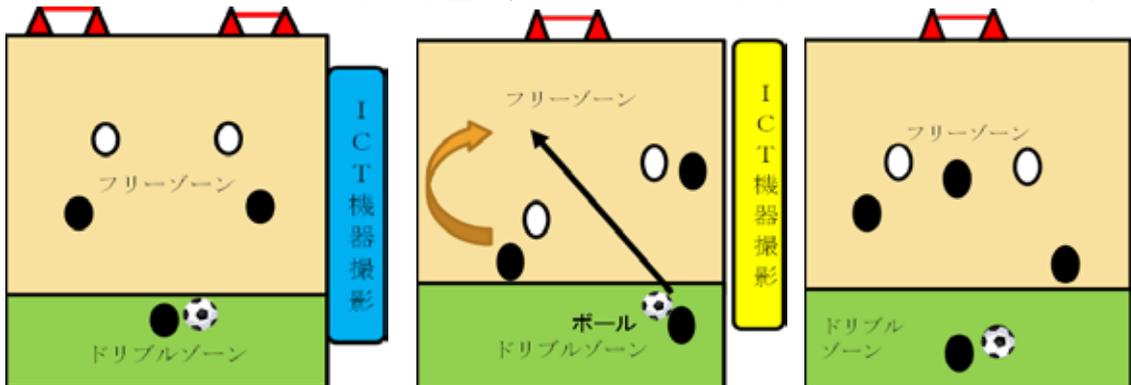
再構築

1 1

「話し合いでの参加の仕方」を当てはめながら、グループへの関わり方を見付ける。

1 グループ練習 (課題の確認と解決練習)

※ グループで出し合った意見を基に、これまでの学習を活かした練習を行う。



2 ミニサッカー「6対6」

- 話し合いを活かしたゲームを行う。
- ゲーム中に、よい取組について互いに声をかけ合うようにする。
- ゲーム間のグループトークでは、仲間やグループのよい動きを大切にしたい意見交流になるようにする。

<フィールド>

縦40m・横20m

<進め方>

ゲーム：5分×2

試合間：2分（グループトーク）

<ルール>

オフサイドルールは適用しない

ゲーム後は、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝える時間を確保する。

【学習内容】

- 自己の課題の解決に向けた練習方法や作戦について話し合う場面で、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとする事。(学) (第12時)
- みんなでサッカーを楽しむために必要な力を身に付けること。(知・技・思・学) (第13時)

1 2



リーグ戦を始める前に、これまで学習してきた「ボール操作」や「空間に走り込む動き」を意識しながら、グループの良さを活かしたゲームができるよう積極的に話し合いをしよう！

1 リーグ戦（6グループ総当たり：全15試合）

<みんなでサッカーを楽しもう！> ○○○リーグ

Aコート

Bコート

Cコート

【リーグ戦①】

- ①-②
- ①-③
- ①-④

【リーグ戦①】

- ③-④
- ④-⑤
- ②-⑤

【リーグ戦①】

- ⑤-⑥
- ②-⑥
- ③-⑥

【リーグ戦②】

- ①-⑤
- ①-⑥

【リーグ戦②】

- ②-③
- ②-④

【リーグ戦②】

- ④-⑥
- ③-⑤

○二日間に分けて

リーグ戦（①・②）を行う。

○10分回し

準備1分・試合8分・移動1分でゲームを行う。

○状況に応じてフィールドの広さやルール（正規のルールに近い）を設定する。

1 3

	①	②	③	④	⑤	⑥
①						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						

《参考資料》

球技【サッカー】

年 組 番 ()

単元テーマ: みんなでサッカーを楽しむために必要な力を身に付けよう!

学習課題	基礎・基本			空間に走り込む動き				課題の確認と解決練習				ゴール		
	特性を理解しよう	みんなで安全を確認しながら活動しよう	みんなでシュート技能を身に付けよう	みんなでパスのポイントを見付けよう	みんなでパス技能を身に付けよう	みんなで役割分担しながら活動しよう	みんなで空間に走り込む動きを身に付けよう	みんなで仲間の課題や出来栄を伝えよう	みんなで仲間の挑戦を認めよう	みんなで話し合いながら力を高めよう	みんなでよい取組を伝えながら活動しよう	みんなでチームの作戦を立てよう	みんなでサッカーを楽しもう	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
学習の流れ	健康観察・本時のめあての確認・準備運動													
	10	オリエンテーション	スキルアップトレーニング (パス・ドリブル)										リーグ戦①	リーグ戦②
			スキルアップトレーニング パス・ドリブル	2ゴールドリル	3対2ドリル	4対2ドリル	グループ練習							
	20		シュートドリル											
	30	基本のボール操作	シュートゲーム	タスクゲーム				簡易ゲーム						
40											単元のまとめ			
50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認													
評価	知	①	②	②		②								
	技			①		②		③						
	意	③	③					③		①	②	④	②	
									②	②		①		

日付	学習課題	今日の成果と感想	日付	学習課題	今日の成果と感想
	※授業全体で意識すること	※学習課題を踏まえて記入する		※授業全体で意識すること	※学習課題を踏まえて記入する
①	知① サッカーの特性を理解しよう	サッカーの特性	⑧	思・判・表① みんなで仲間の課題や出来栄を伝えよう	どのようなポイントも伝えたい? (例: 技のポイントを挙げて)
②	学③ みんなで安全を確認しながら活動しよう	健康・安全に留意したこと	⑨	学② みんなで仲間の挑戦を認めよう	何れかどんな挑戦を認めた? (例: 一人一人の場に応じて)
③	技① みんなでシュート技能を身に付けよう	何れか新しい位置でシュートできた?	⑩	思・判・表④ みんなで話し合いながら力を高めよう	話し合いでどのような役割と関係があった?
④	知② みんなでパスのポイントを見付けよう 知識② (下部もまとめよう)	何れか意識したパスのポイントは?	⑪	思・判・表② みんなでよい取組を伝えながら活動しよう	何れかどのような取組があった? (例: 話を添えて)
⑤	技② みんなでパス技能を身に付けよう	チャンスはどのタイミングでできた?	⑫	学① みんなでチームの作戦を立てよう	作戦を立てる中で話し合ったことは?
⑥	思・判・表③ みんなで役割分担しながら活動しよう	何れか役割でどのように活動した?	⑬	総括 みんなでサッカーを楽しもう	一番楽しめたこと
⑦	技③ みんなで空間に走り込む動きを身に付けよう	ボールとゴールが同時に見える動きに立って	★ 単元全体を通して学んだことや感想を記入しよう ★		
知識 ② [技術の名称や練習のポイントは?]		<p>みんなでサッカーを楽しむために必要な力を身に付けよう!</p> <p>単元全体を通してサッカーの授業は楽しかった?</p> <p>1・2・3・4・5 (1:楽しくなかった → 5:楽しかった)</p>			